

## WEB型オープンキャンパスの開催効果

### —K大学入学者の情報参考度・出願校決定時期・第1志望率に着目して—

竹内 正興（香川大学）

コロナ禍を契機として、オープンキャンパスの開催形式を、従来の来場型（対面型）から来場型とWEB型に複線化する大学が増加している。本研究では、入学した大学のWEB型オープンキャンパスを主に高校時代に経験した者のWEB型オープンキャンパスでの情報参考度や、参加経験を経ての出願校決定時期、また、大学入学時の志望順位について、来場型参加者や不参加者と比べて違いが見られるのかどうかをK大学の新生を対象としたアンケート調査より検討した。調査の結果、WEB型参加者の情報参考度は、来場型参加者よりは低いものの、肯定率は98.2%とほとんどの参加者が参考になったと回答していた。また、WEB型参加者の出願校決定時期は、来場型参加者よりは遅いが、不参加者よりは早い傾向が見られた。一方、第1志望率は、参加者（WEB型、来場型）が不参加者を上回った。情報参考度・出願校決定時期・第1志望率からは、WEB型オープンキャンパスの開催効果があることが窺えた。

キーワード：オープンキャンパス、WEB型、情報参考度、出願校決定時期、第1志望率

#### 1 問題の所在

本研究は、入学した大学のWEB型オープンキャンパスを主に高校時代に経験した者が、WEB型オープンキャンパスでの情報参考度や、参加経験を経ての出願校決定時期、また、大学入学時の志望順位について、来場型参加者や不参加者と比べて違いが見られるのかどうかを検討することを目的とする。

大学が主に高校生を対象として開催するオープンキャンパスについて、倉元ほか（2020）は、「入試広報のシンボルとなる活動」、小勝ほか（2020）は、「学生募集の柱のひとつとなっている」とそれぞれ述べているように、オープンキャンパスは大学が実施する入試広報活動の一大イベントとなっていると考えられる。また、国立大学のケースとして、オープンキャンパスは一般選抜よりも総合型選抜や学校推薦型選抜を経て入学した者の方が、参加率が高く出願校決定に影響を与えているという調査結果がある（吉村，2013）。

しかし、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、従来の来場型での開催は大きな制約を受け、WEB型オープンキャンパスへの変更、もしくは、来場型の開催規模を縮小した上でWEB型を併用するという複線型の開催形式を採用する大学が増加している。従来からの来場型オープンキャンパスでは、たとえば、「立地や施設、設備が確認できる」、「体験授業が受けられる」、「先生や先輩、他の志望者の雰囲気わかる」、「質問や相談ができる」などが参加のメリットとしてあげられていたが（ベスト進学ネット，n.d.）、このうち、「立地、施設、

設備の確認」や「体験授業」、「雰囲気」などは、WEB型ではリアリティーに限界があり、WEB型のデメリットとなることが考えられる。一方、国内外を問わず遠隔地からでも気軽に参加できる点は、WEB型ならではのメリットとして複数指摘されている（永田ほか，2022；小勝ほか，2020）。また、WEB型への参加は生徒の自主性に任せる高校が多く、結果として、学校行事の一環として参加するケースが見られる来場型よりも参加満足度が有意に高く、第1志望者の割合も高いという研究報告がある（田崎ほか，2022）。

そこで、本稿では、入学した大学のWEB型オープンキャンパスを主に高校時代に経験した者を対象とした調査より、入試広報活動の観点から見たWEB型オープンキャンパスの開催効果を入試区分別に検討する。具体的には、「1. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者との間に情報参考度の差は見られるのか」、「2. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に情報参考度の差は見られるのか」、「3. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に第1志望率の差は見られるのか」という3つの問いを立て、WEB型オープンキャンパスの開催効果を考察する。

#### 2 調査概要

##### 2.1 調査時期・対象・方法

調査は2022年4月にK大学に入学した学部1年生のうち、アンケートに協力した1,254人を対象とした（回収率99.8%）。K大学は、四国地区に所在し複数の

学部を有する国立の総合大学である。入試を実施している区分は、主に、総合型選抜Ⅰ（4学部）、学校推薦型選抜Ⅰ（3学部）、学校推薦型選抜Ⅱ（5学部）、一般選抜前期日程（全学部）、一般選抜後期日程（5学部）で、入学者のうち、2022年3月高校卒業生（現役生）が全体の約85%を占めている。

調査は質問紙調査法の形式で、2022年3月に入学手続き書類とともに提出してもらった。K大学オープンキャンパスは毎年8月に開催されており、2019年までは来場型のみで開催、2020年はWEB型のみで開催、2021年は来場型とWEB型（8月開催、動画配信は8月中旬～翌年の1月31日まで）を併用しての開催となった。この開催状況の中で、2022年4月入学者を対象としたのは、高校時代にK大学オープンキャンパスの来場型とWEB型の両方を経験する機会が多くあった学年のためである（表1）。

表1 2022年4月入学者  
高校時代のK大学オープンキャンパス開催状況と  
WEB型オープンキャンパスの開催概要

	高校1年生	高校2年生	高校3年生
2022年3月 高校卒業生 (現役生)	来場型開催	WEB型開催	来場型開催 WEB型開催
2021年3月 高校卒業生 (既卒者)	来場型開催	来場型開催	WEB型開催
< WEB型オープンキャンパス概要(2021年8月開催) > ◆実施期間: 8月、動画は8月～翌年の1月31日まで配信 (来場型は8月に実施) ◆申込方法: 事前登録制(個別相談会は事前予約制) ◆参加者数(全体): 3,599人(来場型参加者数: 3,728人) ◆主なコンテンツ: →可能な限り来場型と同様のコンテンツとした ・オンライン個別相談会(各学部: 7月下旬～8月下旬に実施) ・学部紹介動画(各学部) →オープンキャンパス用に製作 ・全体説明会(各学部) →来場型の説明会を収録した動画 ・入試説明会(各学部) →来場型の説明会を収録した動画			

## 2.2 質問項目

本調査に関する質問5項目は以下の通りである。なお、質問票には、個人が特定できないようにデータ処理することを明記した上で、同意者に、合格した入試区分、出身高校所在地都道府県を記入してもらった。

### <質問項目1>

K大学のオープンキャンパスへの参加経験(選択形式)\*「1」と「2」の複数回答可

- 【選択肢】1. 参加した(来場型)  
2. 参加した(WEB型) 3. 参加しなかった

### <質問項目2>

K大学のオープンキャンパスに参加した学年(<質問項目2>で「1」「2」(参加した)を選択した方のみ回答)(選択形式)\*複数回答可

- 【選択肢】1. 高校1年生 2. 高校2年生 3. 高校3年生 4. その他

### <質問項目3>

K大学の受験に関して、K大学に出願することを決めた時期(選択形式)

- 【選択肢】1. 高校1年終了まで 2. 高校2年段階  
3. 高校3年4月～6月 4. 高校3年7月～9月  
5. 高校3年10月～12月 6. 高校3年1月～3月  
7. 高校卒業後 8. その他

### <質問項目4>

K大学のオープンキャンパスの情報参考度(<質問項目1>で「1」「2」(参加した)を選択した方のみ回答)(選択形式)

- 【選択肢】1. とても参考になった 2. ある程度参考になった  
3. あまり参考にならなかった 4. ほとんど参考にならなかった

### <質問項目5>

K大学の志望順位(選択形式)

- 【選択肢】1. 第1志望 2. 第2志望 3. 第3志望 4. 第4志望以下

## 2.3 分析手法

最初に、オープンキャンパスの参加状況を入試区分と開催形式から概観する。次に、本研究の問い(1. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者との間に情報参考度の差は見られるのか、2. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に出願校決定時期の差は見られるのか、3. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に第1志望率の差は見られるのか)について、単純集計と統計的分析により検証していく。

## 3 結果

### 3.1 オープンキャンパス参加状況

オープンキャンパスの全体の参加率を開催形式と入

試区分別に整理したのが表2である。全体での参加率は28.2%であった。入試区分別では、総合型選抜Iと学校推薦型選抜Iが70%を超えた一方で、学校推薦型選抜IIや一般選抜（前期日程・後期日程）は不参加率が参加率を大幅に上回った。また、参加率が70%を超えた総合型選抜Iと学校推薦型選抜Iでは、WEB型参加者が来場型よりも多かった。特に、学校推薦型選抜IではWEB型参加者が全体の50%以上を占めた。一方、不参加率が50%を超えた学校推薦型選抜IIや一般選抜（前期日程・後期日程）では、来場型参加者がWEB型よりも多い結果となった。

参加した学年の割合（延べ人数）は、高校1年生19.8%、高校2年生15.8%、高校3年生62.6%、その他1.7%と高校3年生が全体の60%以上を占めた。また、県内からの参加者は47.4%、県外からの参加者は52.6%と県外からの参加者の割合がやや高かった。

表2 オープンキャンパス参加率（入試区分・開催形式別）

		参加 (来場+ WEB)	参加 (来場型)	参加 (WEB型)	参加 (計)	不参加
総合I	人数	8	32	44	84	34
	割合	6.8%	27.1%	37.3%	71.2%	28.8%
推薦I	人数	4	22	51	77	23
	割合	4.0%	22.0%	51.0%	77.0%	23.0%
推薦II	人数	4	31	26	61	126
	割合	2.1%	16.6%	13.9%	32.6%	67.4%
前期	人数	3	67	45	115	603
	割合	0.4%	9.3%	6.3%	16.0%	84.0%
後期	人数	0	13	2	15	112
	割合	0%	10.2%	1.6%	11.8%	88.2%
全体	人数	19	165	168	352	898
	割合	1.5%	13.2%	13.4%	28.2%	71.8%

### 3.2 「問い」に対する検証結果

#### 3.2.1 情報参考度

1点目の問いとして設定した「WEB型と来場型オープンキャンパス参加者との間に情報参考度の差は見られるのか」について、はじめに、情報参考度をWEB型と来場型でそれぞれ集計した（表3、図1）。表3の肯定率（「とても参考になった」、「ある程度参考になった」の和）で見た場合、全体では、来場型が97.5%、WEB型が98.2%となり、開催形式による肯定率はともに95%以上となった。一方、図1の「とても参考になった」の回答割合を見ると、来場型が75.5%、WEB型が55.2%となった一方で、「ある程度参考になった」は、来場型が22.1%、WEB型が43.0%となり、情報参考度の強さでは、開催形式間で有意差が見られ（表4、 $p<.01$ ）、来場型参加者がWEB型参加者よりも情報参考度が高かった（表5、 $p<.01$ ）。

次に、入試区分ごとの肯定率を見ると、開催形式に関わらず、どの入試区分においてもほとんどの参加者が参考になったと回答している（表3）。一方、選択肢ごとの回答率を見ると、来場型参加者「とても参考になった」の割合が、いずれの入試区分においてもWEB型参加者よりも高く、特に、学校推薦型選抜IIでは40ポイント以上の差が見られた（図2）。そのため、各入試区分について、開催形式によって情報参考度で差が見られるのかどうかを確認したところ、開催形式間で有意差が見られ（表6、 $p<.01$ ）、学校推薦型選抜IIにおいて、来場型参加者がWEB型参加者よりも情報参考度が高かった（表7、 $p<.05$ ）。

なお、WEB型に参加した一般選抜後期日程での入学者が2人と少なかったため、一般選抜後期日程は分析対象外とした。

表3 オープンキャンパス情報参考度  
入試区分・開催形式別 肯定率

		参加 (来場+ WEB)	参加 (来場型)	参加 (WEB型)
総合I	人数	8	32	44
	割合	100%	100%	100%
推薦I	人数	4	22	51
	割合	100%	100%	100%
推薦II	人数	4	31	26
	割合	100%	96.8%	92.3%
前期	人数	3	67	45
	割合	100%	94.0%	95.6%
全体	人数	19	165	168
	割合	100%	97.5%	98.2%

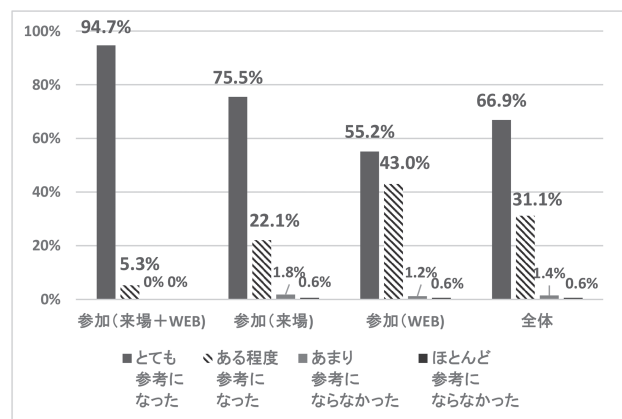


図1 オープンキャンパス情報参考度  
開催形式別（選択率）

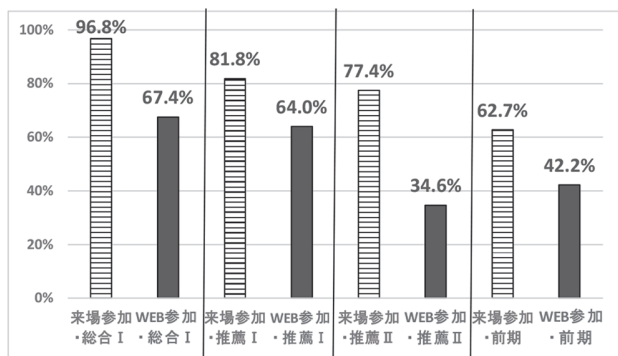


図2 オープンキャンパス情報参考度 入試区分・開催形式別 「とても参考になった」の割合 (%)

表4 オープンキャンパス情報参考度 (全体) 分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F 値	p 値	判定
グループ間	5.4644	2	2.7322	9.5446	0.0001	**
グループ内	99.0456	346	0.2863			
合計	104.5100	348				

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$

表5 オープンキャンパス情報参考度 (全体) 多重比較検定・Bonferroni

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p 値	判定
参加 (来場+WEB)	参加 (来場型)	3.9474	3.7256	0.2218	1.7103	0.2643	
参加 (来場+WEB)	参加 (WEB型)	3.9474	3.5181	0.4293	3.3130	0.0031	**
参加 (来場型)	参加 (WEB型)	3.7256	3.5181	0.2075	3.5232	0.0015	**

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$

表6 オープンキャンパス情報参考度 (入試区分別) 分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F 値	p 値	判定
グループ間	11.1219	7	1.5888	5.5723	0.0000	**
グループ内	87.2507	306	0.2851			
合計	98.3726	313				

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$

表7 オープンキャンパス情報参考度 (入試区分別) 多重比較検定・Bonferroni

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p 値	判定
来場参加・総合I	WEB参加・総合I	3.968	3.636	0.3314	2.6465	0.2395	
来場参加・推薦I	WEB参加・推薦I	3.818	3.640	0.1782	1.3043	1.0000	
来場参加・推薦II	WEB参加・推薦II	3.742	3.231	0.5112	3.5997	0.0104	*
来場参加・前期	WEB参加・前期	3.576	3.409	0.1667	1.6037	1.0000	

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$  同一入試区分での比較のみ記載。

### 3.2.2 出願校決定時期

2点目の問いとして設定した「WEB型と来場型オー

ブンキャンパス参加者および不参加者との間に出願校決定時期の差は見られるのか」について、まず、全体での出願校決定の時期別の割合を一覧にしたのが図3である。出願校決定の割合が最も高かった時期を開催形式別に見ると、WEB型参加者は高校3年の前半(4~6月:28.7%, 7~9月:28.7%), 来場型参加者は高校1年終了まで(27.9%), また、不参加者は高校3年の1~3月(49.4%)となり、開催形式によって異なる結果となった。

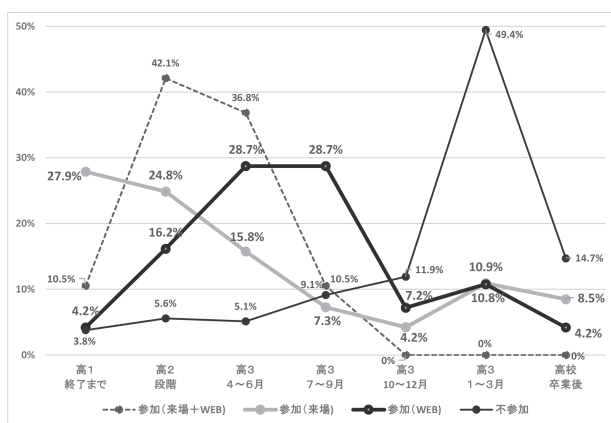


図3 オープンキャンパス開催形式別 出願校決定時期 割合 (%)

次に、入試区分ごとに開催形式別の出願校決定時期を見ると、すべての入試区分において、出願校決定時期が早いのは、来場型参加者、WEB型参加者、不参加者の順となった(図4)。また、WEB型参加者の出願校決定の割合が最も高かった時期を見ると、最も早かったのは、高校3年4~6月の学校推薦型選抜II(34.6%)、次いで、高校3年7月~9月の総合型選抜I(38.6%)と学校推薦型選抜I(42.0%)、最後に、高校3年1月~3月の一般選抜前期日程(31.1%)となった。総合型選抜I、学校推薦型選抜I、一般選抜前期日程については、出願が迫った時期での決定割合が高かったが、不参加者の割合よりは低い結果となった。

最後に、全体および入試区分別にWEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に出願校決定時期の差が見られるのかどうかを、高1終了まで:7点、高2段階:6点、高3・4~6月:5点、高3・7~9月:4点、高3・10~12月:3点、高3・1~3月:2点、高校卒業後:1点としてスコア化し、統計的分析(分散分析)を行い確認したところ、全体では、開催形式間で有意差が見られ(表8,  $p < .01$ )、来場型参加者がWEB型参加者よりも出願校決定時期が早かった(表9,  $p < .01$ )。また、参加形態に関わらず、

WEB型オープンキャンパスの開催効果

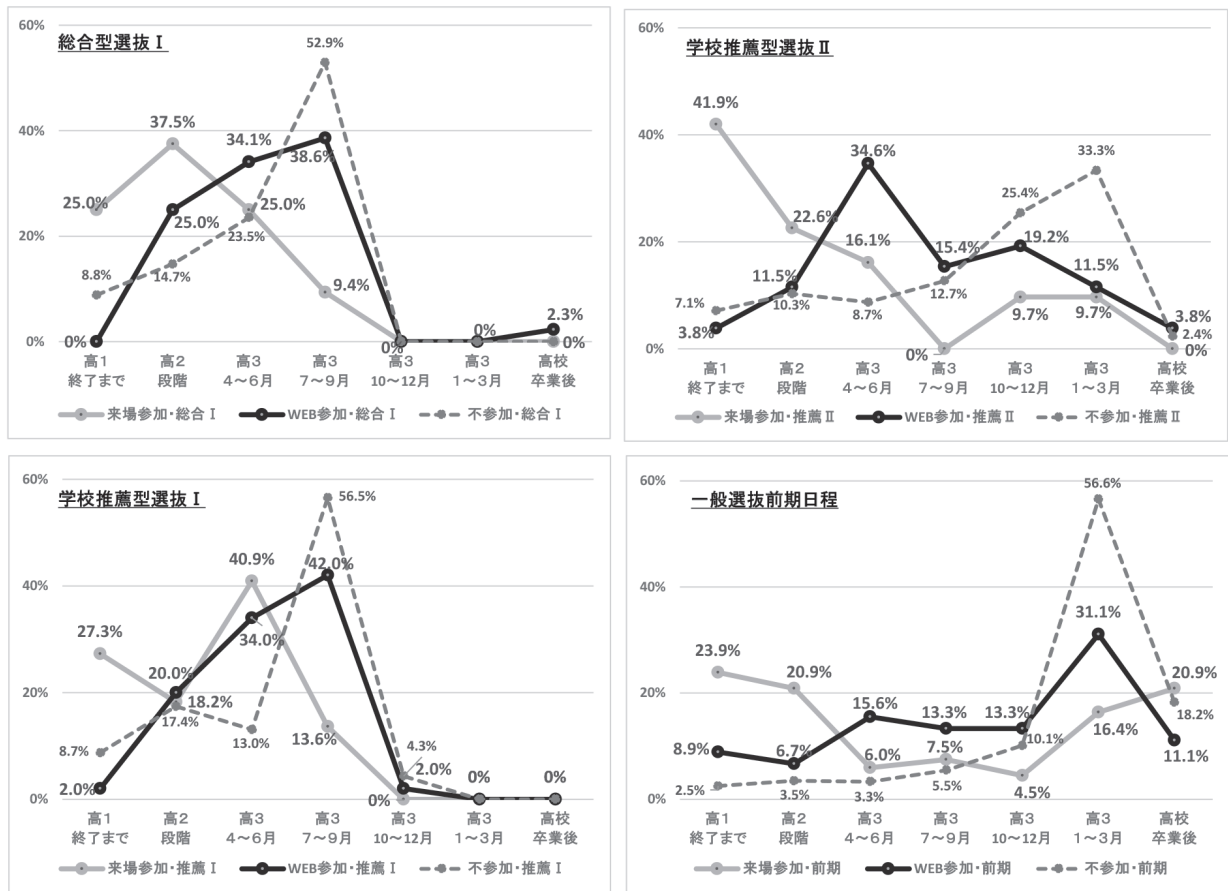


図4 オープンキャンパス入試区分・開催形式別 出願校決定時期 割合 (%)

オープンキャンパス参加者は不参加者よりも出願校決定時期が早かった ( $p<.01$ )。

一方、入試区分別では、開催形式間で有意差が見られ (表 10,  $p<.01$ )、学校推薦型選抜 II の来場型が学校推薦型選抜 II の WEB 型や学校推薦型選抜 II の不参加者よりも出願校決定時期が早かった (表 11,  $p<.05$ ,  $p<.01$ )。また、一般選抜前期日程のオープンキャンパス参加者は、参加形態に関わらず、不参加者よりも出願校決定時期が早かった ( $p<.01$ )。

なお、WEB 型に参加した一般選抜後期日程での入学者が 2 人と少なかったことおよび来場型、かつ、WEB 型参加者がいなかったことから、一般選抜後期日程は分析対象外とした。

表 8 オープンキャンパス開催形式別出願校決定時期 (全体) 分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F 値	p 値	判定
グループ間	933.2701	2	466.6351	180.5833	0.0000	**
グループ内	3162.8684	1224	2.5840			
合計	4096.1385	1226				

\* :  $p<.05$  \*\* :  $p<.01$

表 9 オープンキャンパス開催形式別出願校決定時期 (全体) 多重比較検定・Bonferroni

水準 1	水準 2	平均 1	平均 2	差	統計量	p 値	判定
参加 (来場型)	参加 (WEB 型)	4.9817	4.3214	0.6603	3.7418	0.0006	**
参加 (来場型)	不参加	4.9817	2.7229	2.2588	16.5430	0.0000	**
参加 (WEB 型)	不参加	4.3214	2.7229	1.5985	11.8268	0.0000	**

\* :  $p<.05$  \*\* :  $p<.01$

表10 オープンキャンパス開催形式別  
出願校決定時期（入試区分別）分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F 値	p 値	判定
グループ間	1371.3459	11	124.6678	59.0559	0.0000	**
グループ内	2298.8957	1089	2.1110			
合計	3670.2416	1100				

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$

表11 オープンキャンパス開催形式別  
出願校決定時期（入試区分別）多重比較検定・Bonferroni

水準1	水準2	平均1	平均2	差	p 値	判定
来場参加・前期	不参加・前期	4.1940	2.3927	1.8014	0.0000	**
来場参加・推薦II	不参加・推薦II	5.5806	3.5159	2.0648	0.0000	**
WEB参加・前期	不参加・前期	3.4667	2.3927	1.0740	0.0001	**
来場参加・推薦II	WEB参加・推薦II	5.5806	4.1538	1.4268	0.0154	*
来場参加・総合I	WEB参加・総合I	5.8065	4.7727	1.0337	0.1630	
来場参加・総合I	不参加・総合I	5.8065	4.7941	1.0123	0.3373	
来場参加・前期	WEB参加・前期	4.1940	3.4667	0.7274	0.6283	
WEB参加・総合I	不参加・総合I	4.7727	4.7941	0.0214	1.0000	
来場参加・推薦I	WEB参加・推薦I	5.5909	4.7647	0.8262	1.0000	
来場参加・推薦I	不参加・推薦I	5.5909	4.6957	0.8953	1.0000	
WEB参加・推薦I	不参加・推薦I	4.7647	4.6957	0.0691	1.0000	
WEB参加・推薦II	不参加・推薦II	4.1538	3.5159	0.6380	1.0000	

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$  同一入試区分での比較のみ記載。

### 3.2.3 第1志望率

3点目の問いとして設定した「WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に第1志望率の差は見られるのか」について、集計結果をまとめたのが表12である。開催形式ごとの第1志望率を見ると、WEB型参加者の第1志望率が89.3%となり来場型参加者の83.0%よりも高かった。この結果は、単純集計では、田崎ほか（2022）の先行研究と符合していたが、本研究においては、WEB型参加者と来場型参加者の第1志望率に有意差はなく、WEB型参加者の第1志望率が来場型参加者よりも高いという結果にはならなかった（表13）。ただし、いずれの開催形式においてもオープンキャンパス参加者と不参加者との間には有意差が見られ（ $p < .01$ ）、オープンキャンパス参加者の第1志望率は不参加者よりも高かった。

入試区分別では、まず、総合型選抜I、学校推薦型選抜Iでは、参加したオープンキャンパスの開催形式や不参加に関わらず、ほとんどの入学者が第1志望だった（表12）。次に、学校推薦型選抜IIでは、有意

差は見られなかったものの（表14）、来場型参加者90.3%、WEB型参加者80.8%に対し、不参加者は62.7%と、オープンキャンパス参加者と比べ第1志望率が低くなった（表12）。最後に、一般選抜前期日程のオープンキャンパス参加者は、参加形態に関わらず、不参加者よりも第1志望率が高かった（表14,  $p < .01$ ）。

なお、WEB型に参加した一般選抜後期日程での入学者が1人だったため、一般選抜後期日程は分析対象外とした。

表12 第1志望者の人数と割合（入試区分・開催形式別）

		参加 (来場+ WEB)	参加 (来場型)	参加 (WEB型)	参加 (計)	不参加
総合I	人数	8	32	43	83	30
	割合	100%	100%	97.7%	98.8%	88.2%
推薦I	人数	4	22	50	76	21
	割合	100%	100%	98.0%	98.7%	91.3%
推薦II	人数	4	28	21	53	79
	割合	100%	90.3%	80.8%	86.9%	62.7%
前期	人数	3	47	35	85	284
	割合	100%	70.1%	77.8%	73.9%	47.1%
後期	人数	0	8	1	9	16
	割合	0%	61.5%	50.0%	60.0%	14.3%
全体	人数	19	137	150	306	430
	割合	100%	83.0%	89.3%	86.9%	47.9%

表13 オープンキャンパス開催形式別  
入学者の第1志望率（全体）  
多重比較検定・Bonferroni

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p 値	判定
参加 (来場+WEB)	参加 (来場型)	1.0000	1.2364	0.2364	1.2272	1.0000	
参加 (来場+WEB)	参加 (WEB型)	1.0000	1.1198	0.1198	0.6222	1.0000	
参加 (来場+WEB)	不参加	1.0000	1.7606	0.7606	4.1266	0.0002	**
参加 (来場型)	参加 (WEB型)	1.2364	1.1198	0.1166	1.3362	1.0000	
参加 (来場型)	不参加	1.2364	1.7606	0.5242	7.7848	0.0000	**
参加 (WEB型)	不参加	1.1198	1.7606	0.6408	9.5649	0.0000	**

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$

表 14 オープンキャンパス入試区分・開催形式別  
入学者の第1志望率（入試区分別）  
多重比較検定・Bonferroni

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p 値	判定
WEB参加 ・前期	不参加 ・前期	1.2667	1.7761	0.5095	4.4424	0.0006	**
来場参加 ・前期	不参加 ・前期	1.3881	1.7761	0.3881	4.0606	0.0035	**
来場参加 ・総合I	WEB参加 ・総合I	1.0000	1.0455	0.0455	0.2636	1.0000	
来場参加 ・総合I	不参加 ・総合I	1.0000	1.1471	0.1471	0.8046	1.0000	
来場参加 ・推薦I	WEB参加 ・推薦I	1.0000	1.0000	0.0000	0.0000	1.0000	
来場参加 ・推薦I	不参加 ・推薦I	1.0000	1.0870	0.0870	0.3929	1.0000	
来場参加 ・推薦II	WEB参加 ・推薦II	1.1613	1.1923	0.0310	0.1572	1.0000	
来場参加 ・推薦II	不参加 ・推薦II	1.1613	1.4444	0.2832	1.9032	1.0000	
来場参加 ・前期	WEB参加 ・前期	1.3881	1.2667	0.1214	0.8487	1.0000	
WEB参加 ・総合I	不参加 ・総合I	1.0455	1.1471	0.1016	0.5996	1.0000	
WEB参加 ・推薦I	不参加 ・推薦I	1.0000	1.0870	0.0870	0.4651	1.0000	
WEB参加 ・推薦II	不参加 ・推薦II	1.1923	1.4444	0.2521	1.5773	1.0000	

\*:  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$  同一入試区分での比較のみ記載。

#### 4 考察とまとめ

問いの設定に対する調査結果を踏まえ、次の4点を指摘したい。

1点目は、オープンキャンパスの参加状況を入試区分別に見た場合、総合型選抜Iと学校推薦型選抜Iの参加率が他の入試区分（学校推薦型選抜II，一般選抜前期日程・後期日程）より高く、かつ、WEB型での参加率が来場型の参加率を上回っていたことである。総合型選抜や学校推薦型選抜を経た入学者の参加率が高いことは、吉村（2013）の先行研究と一致しているが、本調査では、さらに、大学入学共通テストを課さないI型を経ての入学者の参加率が高いことが特徴といえる。この要因としては、総合型選抜Iと学校推薦型選抜Iの参加者は、ほぼ全員が第1志望であることから、主体的に参加し情報収集しようとする傾向が強いことがあげられる。また、総合型選抜Iと学校推薦型選抜Iは大学入学共通テストを課さず、選抜は大学の個別試験のみとなるため、最新のK大学の入試情報を得ようとする参加者が多かったことが考えられる。

2点目は、本稿における1番目の問いとして設定した「1. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者との間に情報参考度の差は見られるのか」についてである。

結果は、来場型参加者の方がWEB型参加者よりも

情報参考度が高かったが、肯定率においては、双方の差は0.7ポイントと僅かだったことから、WEB型オープンキャンパスにおいても、出願に向けて参考となる情報を発信できていたことが窺えた。一方、入試区分別では、学校推薦型選抜IIにおいて、WEB型が来場型参加者よりも情報参考度が低い結果となった。この要因の一つとして、K大学の学校推薦型選抜IIを実施する多くの学部では、出願期間が大学入学共通テスト後であることに加え、実質的に個別試験を実施せず、主に、出願書類と大学入学共通テストでの選抜となるため、大学のキャンパスを直接訪れること以外で得られる参加メリットが少なかったことが考えられる。つまり、1点目でも指摘したが、入試区分別に見た場合、WEB型オープンキャンパスについては、入試において個別試験の配点が高いなど、大学独自の入試情報を有するほど参加メリットがあると考える者が多かった可能性が考えられる。

3点目は、本稿における2番目の問いとして設定した「2. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に出願校決定時期の差は見られるのか」についてである。

結果は、全体では、WEB型参加者は、来場型参加者よりは出願校決定時期が遅いもの、不参加者よりは早く、早期の出願校決定を促す、もしくは、出願校決定の意思を強固にするという観点から開催効果があることが窺えた。特に、入試区分別に見た場合、学校推薦型選抜IIにおけるWEB型参加者の出願校決定時期のピークが、他の入試区分とは異なり出願直前期でなかった点や、一般選抜前期日程において、高校3年の1月～3月という出願直前期の決定者がWEB型参加者31.1%に対し、不参加者は56.6%と25ポイント以上の差が見られた点はWEB型オープンキャンパスの開催効果として考えられる。なぜなら、出願直前期の決定者の割合を減らすことは、入学満足度の割合を高めることに寄与する可能性が指摘できるからである。

また、全体および各入試区分において、WEB型参加者が来場型参加者よりも出願校決定時期が遅い結果となったが、この要因の一つとして、K大学2022年4月入学者の約85%を占める2022年3月高校卒業生（現役生）が、K大学のWEB型オープンキャンパスに参加できる学年が高校2年生以降であったことが考えられる。

最後4点目は、本稿における3番目の問いとして設定した「3. WEB型と来場型オープンキャンパス参加者および不参加者との間に第1志望率の差は見られるのか」についてである。

結果は、WEB型参加者と来場型参加者との間に第1志望率の差は見られなかったものの、最も募集人員が多い一般選抜前期日程において、WEB型参加者を含めたオープンキャンパス参加者の第1志望率が、不参加者よりも高いことが確認された。3点目の考察とも共通するが、吉村（2013）が、「オープンキャンパスへの参加者の多く（70%程度）は参加前から志望しており」と指摘しているように、受験生はオープンキャンパスを契機として出願校を決定したり第1志望校として設定したりするとは限らない。しかし、少なくとも、WEB型オープンキャンパスに参加することによって、出願校未決定者が、出願候補校としてより有力な選択肢とすることや、志望順位が高くなかった者が志望順位を上げる効果を生み出すことが期待できるだろう。

2020年に発生したCOVID-19が5類に移行し、今後、来場型での開催が2019年以前の水準に向けて増加に転じていくことが予想される。その際、来場型を主としつつも、来場型のみではカバーできない点（例えば、遠隔地からの参加率向上や、自主的な参加者の意欲を持続するような複数回参加が可能なプログラムの設定）を、WEB型と組み合わせて実施していくことが、今後、入試広報活動の観点から見たオープンキャンパスの開催効果をより高めることにつながると考えられる。

## 参考文献

- ベスト進学ネット（n.d.）.『オープンキャンパスの4つのメリット』 < <https://www.best-shingaku.net/s-matome/opencampus/c000018.php> >（2023年1月26日）
- 倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・南紅玉（2020）.「東北大学における入試広報活動の『これまで』と『これから』－頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ－」『教育情報学研究』19, 55－69.
- 永田純一・三好登・杉原敏彦・竹内正興（2022）.「オンライン入試広報活動の課題と展望－広島大学を事例に－」『大学入試研究ジャーナル』32, 265－270.
- 小勝健一・藤ノ木有沙（2022）.「ポストコロナ時代のオープンキャンパス－オンライン開催の実態と効果についての一考察－」『DHU JOURNAL2020』103－105.
- 田崎優里・山田恭子・浦崎直光（2022）.「WEB型オープンキャンパスの特徴と効果－来場型オープンキャンパスとの差異に着目して－」『大学入試研究ジャーナル』33, 1－6.
- 吉村宰（2013）.「新生生の受験校決定理由と入学時点での『気持ち』および学業成績との関連」『大学入試研究ジャーナル』23, 63－70.